
早稲田大学図書館所蔵 明治期彩色写真帖

藤原秀之

近年、幕末・明治期の日本における写真撮影の黎明期に関する研究が活発におこなわれている。また、1853年のペリー来航から150年という区切りの年を迎えたことや、折からの新選組ブームが一つのきっかけとなり、関連する多くの展覧会が各地で開催されており、そうした企画を主催する博物館、美術館が、それぞれ所蔵する明治期写真帖について紹介する機会も多くなっている。⁽¹⁾

早稲田大学図書館（以下、当館と称する）でも、2003年1月『江戸・明治幻景一館蔵古写真とその周辺一』と題して展覧会を開催した。展示内容は、幕末から明治、大正期の古写真や関連資料であり、その後、静岡県磐田市立図書館へも巡回展示をおこない好評を博した。

本稿は展示の中心であった『ファーサリ写真帖』と、他3点の明治期彩色写真帖について、その詳細を紹介するとともに、若干の考察を加えてゆくものである。なお、ここで紹介するのは、館蔵の明治期写真のうち、“横浜写真”と呼ばれるような人物・風景写真帖である。これは、幕末から明治にかけて撮影・彩色され、アルバムに仕立てられたもので、多く横浜の写真館で製作され、欧米へと輸出されたため、この呼称がある。なお、その他の当館で所蔵する同時代に撮影された、ステレオ写真・時事報道写真・特定の目的をもって作成された写真帖などについては別に考えたい。⁽²⁾

I. 写真技術の発展と横浜写真

考察に先立って、写真撮影の歴史、特に日本への伝来と横浜写真の広ま

りを簡単に辿っておこう。⁽³⁾

写真の歴史を振り返ったとき「写真には単独の発明者はいない」⁽⁴⁾という言い方ができる。一般的には1839年、フランスのダゲール (Daguerre, Louis Jacques Mandé, 1787-1851) が銀板写真術を公表したことが草創期のできごととして有名だが、実際にはそれ以前からさまざまな人々が独自の方法で“カメラ・オブスキュラ”⁽⁵⁾に投影される像を定着させる手段の研究を続けていた。現存最古とされる写真は、1827年頃にニエプス (Niépce, Joseph Nicéphore, 1765-1833) が撮影したものである。ダゲールは写真の実用化、商品化に最初に成功した人物であったといえよう。ダゲールが開発した“ダゲレオタイプ”と呼ばれる写真機が日本へもたらされたのは、1848年(嘉永元)のこととされる。長崎に来航したオランダ船が持ち込んだものを、のちに長崎における写真撮影の先駆となった上野彦馬(1838-1904)の父である商人、上野俊之丞常足(1790-1851)が引き取り、それを薩摩藩が購入したのが最初とされている。その後、薩摩藩では藩主斉彬の積極的指示によって研究が進められ、1854年(安政元)には担当者であった蘭学者・川本幸民(1810-1871)によって銀板写真の解説を記した『遠西奇器述』が著された。

一方、西洋における写真技術はその後さらに進展していた。鶏卵紙と湿板写真法の発明である。鶏卵紙は1850年、ブランカール＝エヴラルール (Blanquart-Evrard, Louis Desiré, 1802-1872) が発明したもので、卵白と塩化物(食塩等)の混合液を塗った紙を乾燥させ、さらに硝酸銀溶液によって感光性をもたせたもので、原板(ネガ)と重ねて紫外線(太陽光等)にあてることで紙焼写真ができる。これを彩色すると鮮やかな擬似カラー写真となる。日本では幕末・明治の錦絵作者が、写真の彩色にも優れた才能を発揮した。本稿で対象とする写真帖も、こうした彩色技術を駆使した擬似カラー写真集である。

湿板写真は1851年にイギリスのアーチャー (Archer, Frederick Scott, 1813-1857) が発明したものである。ガラス板に、ヨウ化カリウム等を加えたコロ

ジオン（ニトロセルロースをエーテルとアルコールの混合溶液に溶解した透明、粘性の液体）を塗布し、固まりかけた頃合いに硝酸銀溶液に浸して感光性の被膜をつくって撮影に使う。コロジオンが乾くと著しく感度が低下してしまい、また現像処理もできなくなるため、撮影、現像、定着は湿っている状態で行われなければならない。そのため、撮影にはすべての用具を常時準備した状態でおこなう必要がある。しかし、銀板写真よりも高感度、安価であり、また鶏卵紙への焼付けが可能なことから、銀板にかわって写真の中心となった。日本へは、1859年（安政6）にロシエ（Rossier, Pierre Joseph, 1829-?）がイギリス総領事（のち公使）オールコックに随って職業写真家として来日し、当時の日本の風景等を湿板によって撮影したものが最初期のものである。その後、長崎や新たな開港地、横浜を中心に写真を職業とする人々（外国人・日本人とも）があらわれ、当時の世相、風俗を撮影した多くの写真を今日まで残している。

さらに技術的には1883年（明治16）頃、湿板にかわる画期的な撮影法である乾板写真法が導入され、明治20年代になるとその利便性もあって一気に湿板を駆逐していった。⁽⁶⁾

さて、本稿の主題である彩色写真アルバムは、周知のように、主として当時来日した多くの西洋人向けの土産品として、また海外輸出用に作られたものである。同一ネガから鶏卵紙への大量焼付けが可能となり、一方で日本が新たな市場として海外に開かれると、日本の風俗、風景を紹介する写真も輸出品として定着するようになる。斎藤多喜夫氏によれば、海外輸出品としての写真は1882年（明治15）頃から増加しはじめ、1887-97年（明治20-30）頃にピークを迎えたという。⁽⁷⁾そうした輸出産業を支えたのが、横浜、長崎、東京などで開業していた写真館である。特に横浜を中心とした商業写真館の歴史については、斎藤氏の近著⁽⁸⁾にあきらかであり、ここであらためて繰り返すことはしないが、その中から本稿で紹介する写真帖と関連の深い人物をあげれば、F. ベアト、さらにはベアトから写真館を譲り受けたスティルフリート、その店で働いた可能性のある日下部金兵衛、また

スタイルフリートの帰国後しばらくしてその写真館を継承したファーサリ⁽⁹⁾がいる。以下にそれら4名の横浜における写真業を中心に、略歴を簡単にまとめておこう。(表1)

F. ベアト (Beato, Felice, 1825?-1904?) は、報道写真家として1850年代後半以降アジア各地をまわり、1863年頃に来日、先に来日していたワーグマン (Wirgman, Charles, 1835-1891) と共同で横浜に写真館を開業した。肖像写真や風俗写真を撮影販売し、横浜、長崎やその周辺といった当時の外国人居留者に移動が許された範囲での撮影旅行にも出かけていたようである。1868年にワーグマンと別れ、1870年(明治3)頃には単独で写真館を開業、撮影した写真に解説シートを添えたアルバムの販売をはじめた。横浜写真アルバムの端緒といえよう。その後不動産関連やホテル業といった写真館以外の業務に手をひろげ、結局1877年(明治10)1月、ネガから顧客まですべてを Stillfried & Andersen に譲渡し写真業から撤退、1884年(明治17)頃には離日する。

ベアトから写真館を譲渡されたスタイルフリート (Stillfried-Ratenitz, Baron Raimund) は、1860年代末からたびたび来日し、1871年(明治4)横浜で写真館を開業した。明治天皇盗撮事件をおこす一方、開拓使に雇用され北海道の撮影旅行をおこなうなど、写真家として活動、さらには1873年のウィーン万博や1876年のフィラデルフィア博覧会に出品し、欧米でもその名を知られるようになっていった。1875年(明治8)には社名を Stillfried & Co., (スタイルフリート商会) から Japan Photographic Association (日本写真社) と変更した。1876年に刊行された在日外国人名鑑ともいべき『Hong List and Directory』⁽¹⁰⁾によると、この年からアンデルセン (Andersen, Hermann) が経営者に名を連ねている。1877年(明治10)1月14日、スタジオが焼失するというアクシデントがあったが直後の1月23日、前述のようにベアトから写真館を譲り受けた。この頃からアンデルセンが経営の主体となり、1878年の Directory からは日本写真社の社名とともに Stillfried and Andersen と併記され、同じ地番にアンデルセンの私邸

(Private Residence) が記載されている。結局この年のうちにアンデルセンとの共同関係が解消されたようで、翌年からは社名はそのままに経営者からスティルフリートの名が消えている。両者はこの後写真業の経営権をめぐって対立し、スティルフリートは1881年(明治14)に離日、最終的に経営権は彼の兄であるフランツ(Franz)が継承し、翌年にはその権利をファーサリに譲渡しフランツも離日した。

ファーサリ(Farsari, Adolfo, 1841-1898)はイタリア生まれの軍人で、アメリカ南北戦争にも従軍した経験がある。その後の経歴は未詳だが、1873年(明治6)頃に来日、1879年(明治12)に横浜のSargent, Farsari & Co., (サージェント・ファーサリ商会)の共同経営者として、タバコ・文具等とともに日本の名所風景写真の販売も手がけていたという。1885年(明治18)にすでに写真館を経営していた玉村康三郎⁽¹⁾(1856-?)と共同でA. Farsari & Co., (ファーサリ商会)を開業、前述のようにスティルフリエートの写真館を継承した。ただ、翌年には写真館が全焼し、ネガも失ってしまう。さらに玉村とも対立、関係を解消した。どのようにしてファーサリが写真館を再興したか正確なところは未詳だが、どうやら隣接する区画にあったYokohama Photographic Company(横浜写真社)を買収したらしい。⁽²⁾また、失ったネガを回復するため、中山道を中心とした撮影旅行をおこなったという。その後、ファーサリ自身は1890年(明治23)にイタリアへ帰国してしまうが、写真館は日本人社員らによって経営され、横浜での営業は1923年(大正12)の関東大震災まで続けられた。

日下部金兵衛(1841-1934)がはじめて記録に登場するのは1867年(慶応3)、上海へ赴いたベアトの助手としてである。⁽³⁾その後1881年(明治14)には横浜弁天通で開業していたようだが、⁽⁴⁾その間の経緯ははっきりしない。⁽⁵⁾『Japan Directory』にはじめて金兵衛(商号はK. KIMBEI = 金幣写真館)が登場するのは、1883年版(明治16)からである。そこには、「Kimbei Photograph Dealer. Benten-dori」、つまり写真商という職種で登場している。金兵衛はこの年広告も掲載しているが、そこでも「K. KIMBEI, No.36,

Benten-Dori, Nichome, Yokohama, Japan. Dealer in Photographic VIEWS AND COSTUMES OF JAPAN.』と言っている。他の写真館、たとえば臼井秀三郎が「Artist and Photographer」としているのとは少し立場が違うようである。翌年のDirectoryには金兵衛の記載はなく、1885年版(明治18)に「K. Kimbei. *Photographer. 27&36, Bentendori Ni-chome.*」として再登場、広告でも「PHOTOGRAPHER.」と称している。そしてこの間にどうやら店舗の拡張がなされたようで、住所が弁天通2丁目27, 36番地の2箇所に別れている。この事情については1887年版(明治20)のDirectoryが参考になる。この年、金兵衛は「K. KIMBEI, PHOTOGRAPHER. (中略) No. 36. BENTEN DORI, NICHOME」、 「K. KIMBEI. DEALER IN PHOTOGRAPHIC VIEWS & COSTUMES OF JAPAN ; ALSO PHOTOGRAPHER. (中略) No. 27 BENTEN-DORI, NICHOME」と2件の広告を掲載している。これによれば元からあった36番地は「Photographer」として、新たな27番地は「Dealer」として使用していたようである。つまり金幣写真館においては撮影・製作と営業が分離して取り扱われるようになっていた、といえるかもしれない。開業当初は「Dealer」とされた金兵衛もここへきて確実に「Photographer」として自他共に認める存在となっていった。そして1890年(明治23)には本町通に移転、横浜写真全盛の時代にあってKIMBEIの名を世に広めていった。その後、東京芝や銀座に支店や関連会社を設立し、さらには1904年(明治37)のセントルイス万博にも出品している。1906年(明治39)に近隣の火災で類焼するも直後に規模を拡大して再建、明治期の横浜写真業界の中心を担う存在であった。

以上のように、これらの4名は互いに関連を持ちながら、それぞれ別に活動していたことがわかる。彼らをはじめ多くの写真家、写真館経営者たちが、いわゆる“横浜写真”の隆盛をささえたのである。

それでは上述の内容を踏まえて、館蔵の写真帖について個別に検討してゆくことにする。

Ⅱ．館蔵写真帖の紹介

館蔵の写真帖についてまずそれぞれの書誌的概要や収蔵にいたる経緯などについてまとめておく。なお、各資料名は、原則として現物の記載によるか、当館での登録名とした。

1. 『ファーサリ写真帖』（HD 1955 1-4）

1) 書誌的概要

それぞれ内容の異なる大小各2冊、計4冊からなる。現在は大小2つの白木2段の印籠箱に、各冊ごとに収められており、蓋表に「ファーサリ日本写真帖」と墨書されている。この箱書は早稲田大学収蔵後に加藤諄教授（当時）によって揮毫されたものである。ただ、大きさだけでなく写真の状態から、4冊が同時に作成されたとは考えにくい。以下、各冊ごとの書誌事項を記しておく。

①第1冊

大きさ：縦32.0×横40.5×厚5.3cm、左綴。

装 釘：黒地蒔絵芝山象嵌⁽⁶⁾表紙。前表紙には前景に人力車を引く男と車上には着物姿の女性。背景には寺と富士山を描く。後表紙には蔓草に鳥図。前後とも見返しと遊紙に白地に浮出文様の施された紙を用い、遊紙はそれを2枚、文様の面を表に貼り合せ厚みをもたせている。背表紙は革で、「ALBUM」と金で記されている。三方金をほどこした厚手の台紙25枚の両面に計50点の写真が貼り込まれている。写真の大きさはおおよそ20.8×26.8cm程度。個々の番号は写真中の適当な場所に白文字で記入されており、写真下の台紙に写真を説明するタイトルを記した小紙が貼られている。各丁の写真の間には薄紙が1枚綴じこまれており、写真同士が直接触れることのないようになっている。

②第2冊

大きさ：縦32.0×横40.3×厚4.5cm、左綴。

装 釘：黒地蒔絵芝山象嵌表紙。前表紙には母親と2人の子供が描かれている。母親は障子にウサギの影絵を作り、子供たちがそれを楽しむように見ている。左に明り採りの円窓と三味線、右に長火鉢を描く。後表紙には蓮と蝶。第1冊同様、前後とも見返しと遊紙に白地に浮出文様の施された紙を用い、遊紙はそれを貼り合せ厚みをもたせている。前遊紙裏に「横濱海岸通拾六番館 ファサリ商會写真店 A. FARSARI & Co., PHOTOGRAPHERS, PAINTERS, SURVEYORS PUBLISHERS & COMMISSION AGENTS. No.16 Bund, Yokohama, Japan.」の文言と墨竹図が刷られた貼紙がある。この貼紙により本冊がファーサリ商会の製品であることが推察されるが、ただ館蔵となった当初は挟み込まれていたもので、貼り付けたのが遊紙の破れた部分を修補した後であることから、ただちにファーサリ商会の製品と断定することはできない。背表紙は革で、「ALBUM」と金で記されている。三方金をほどこした厚手の台紙25枚の両面に計50点の写真が貼り込まれている。写真の大きさはおおよそ20.8×26.8cm程度。個々の番号は写真中の適当な場所に白文字で記入されており、写真下の台紙にタイトルを記した小紙が貼られている。各丁の写真の間には薄紙が1枚綴じ込まれており、写真同士が直接触れることのないようになっている。

③第3冊

大きさ：縦29.0×横36.5×厚4.2cm、左綴。

装 釘：黒地蒔絵芝山象嵌表紙。前表紙には梅の鉢植を中心とした花鳥図。後表紙には螻蛄、天道虫、蜂、蝶を配した虫草図。前後とも見返しと遊紙に白地に浮出文様の施された紙を用いている。遊紙はそれを貼りあわせていないので、第1、2冊よりは薄い。背表紙は革で、「JAPAN」と金で記されている。冒頭には三方金をほどこした厚手の台紙1丁が挿入され、その表には「JAPAN A. FARSARI & CO. YOKOHAMA」の文字と写真12枚を組み合わせた標題紙が

貼り付けられている。(写真①) これとまったく同じ標題紙を持つ日下部金兵衛アルバムとされるものが長崎大学附属図書館にある。そこには「A. FARSARI & CO. YOKOHAMA」とある部分に「Frühjahrs 1896」すなわち、1896年(明治29)春、との年記がある。(写真②) これが確かに金幣写真館によるものだとすると、金兵衛がファーサリと同一の標題紙を用いたことになる。画像を見る限り、長崎大学蔵本の年記は後から嵌め込んだようにも見える。だとしたら『ファーサリ写真帖』の該当部分を削除したうえに記入し、焼き直したものであろうか。この点については後述する。標題紙と同様の台紙25枚の両面に計50点の写真が貼り込まれている。写真の大きさは19.2×23.8cm程度。主として写真の左下角に、黒地白抜で写真番号とタイトルが写しこまれている。

④第4冊

大きさ：縦29.3×横36.8×厚5.5cm、左綴。

装 釘：黒地蒔絵芝山象嵌表紙。前表紙には前景に女性を乗せた駕籠を、背景には富士山と街道筋の飯屋を描く。また後表紙は蠅螂、蜂、蝶、天道虫を配した虫草図である。第3冊同様、前後とも見返しと遊紙に白地に浮出文様の施された紙を用いており、遊紙はそれを貼りあわせずに使用している。背表紙は革で、「JAPAN」と金で記されている。冒頭には三方金をほどこした厚手の台紙1丁が挿入され、その表には「JAPAN A. FARSARI & CO. YOKOHAMA」の文字と写真12枚を組み合わせた標題紙が貼り付けられている。標題紙と同様の台紙25枚の両面に計50点の写真が貼り込まれている。写真の大きさは19.2×23.8cm程度。主として写真の右下角に、黒地白抜で写真番号とタイトルが写しこまれているが一部に番号のみを白文字で記入したものもある。

2) 内容リスト(後掲)

3) 考 察

本写真帖については、すでに青木枝朗氏によって紹介されたことがある。⁽¹⁷⁾そこでは主として受入の経緯と、一部写真の撮影地の比定、さらには日本文献の収集家として知られるドン・ブラウン氏とのやり取りを通じてファーサリについての考察がなされている。⁽¹⁸⁾

前述の書誌事項の記述からもわかるように、大判2冊と小判2冊とは大きさの違いを別にすれば外見的には共通する部分も多いが、貼りこまれた写真の番号とタイトルの記述の仕方が違っている点が目に付く。

そもそもこうした写真帖は、それぞれの写真館が所蔵する数多くのネガのなかから、海外向けに需要の多そうな写真を中心に適当なものを選択したり、土産物の場合には発注者の意図を汲みながらアルバムとして製作するものであろう。⁽¹⁹⁾そのせいもあってか、部分的に何枚かが同一の写真を含む場合もあるが、全体を通して同一内容の写真帖というのは見当たらない。いずれにしてもそうした形で写真を選定する際に、ネガ番号とタイトルがあったほうが、整理上も作業効率の上からも具合がいいであろう。事実、風景写真を中心にほとんどの写真が黒地白抜で番号とタイトルが写し込まれている。本写真帖でも小判2冊では左右の下角にそうした形で番号、タイトルがあるが、大判2冊はそうではなく、番号のみが写真中に白文字で記入されているもののその場所は一定ではなく、タイトルは台紙に貼付している。写真の決まった場所に番号・タイトルがあったほうが当然選定しやすいし、誤りも少ないであろう。そのように考えると大判、小判それぞれに収められた写真の原板作製年代は、そうした形式の整っていない大判のほうが古いといえるのかもしれない。さらには、第3冊と第4冊を比較したとき、第3冊の写真番号はA、Bなどのアルファベットが付記されたものがほとんどである。これも原板作製時期を考察する上では重要であろう。この問題は撮影者の推定にも大きくかわる部分であり、他の写真帖との関連もあるので、後述することとする。

2. 『ALBUM』[明治期彩色写真帖] (HD 1955 5)

1) 書誌的概要

大きさ：縦27.5×横36.5×厚4.8cm、左綴。

装 釘：『ファーサリ写真帖』と同様の黒地蒔絵芝山象嵌表紙。前には2羽の鶉と菊、萩といった草花鳥図。後は飛蝗、蟻螂、蝶を描く。三方金をほどこした厚手の台紙25枚の両面に計50点の写真が貼り込まれている。写真の大きさは19.6×25.6cm程度。写真下部に黒地白抜で写真番号とタイトルが写しこまれているが、左右は一定せず、おおよそ左：右が3：2の割合で、番号に「No.」と前付されているものがある。さらにそれとは別に一部に白文字で写真の適当な場所に番号を記入したものがある。ただ、この場合にも定形の番号、タイトルは記入されており、それと白文字の番号は同一である（貼込順22など）。タイトルには単純な英語の誤記（貼込順1：N→И、43：ROAD→ROODなど）もあり、英語を母国語とした人物によって作られたとは思えない。こうした写真帖の製作に多くの日本人職人が関与したことは周知のことであり、²⁰本書の製作にも同様に日本人職人が深く関与していたのであろう。見返し、遊紙とも『ファーサリ写真帖』の大判と同一であり、革の背表紙に「ALBUM」と金で記されている点も共通している。ほかに各丁の写真の間には薄紙が1枚綴じこまれており、写真同士が直接触れることのないようになっている点でも『ファーサリ写真帖』と同様の作りとなっている。現在は音曲、舞、裸像といった戯画風の日本髪女性の絵を全面に配した布貼の箱に収められているが、この箱がいつ作られたものかは未詳である。ただ、戯画化した日本人の意匠は西洋人好みとも考えられ、だとすれば作製当初に近い時期のものかもしれない。現在当館では、本書を『ファーサリ写真帖』に続くものとして受け入れている。

2) 内容リスト (後掲)

3) 考 察

当館で1987年、古書店を通して購入したものである。それ以前の来歴を物語る資料はない。内容を見ると、全50点の写真が地域毎、テーマ別にはほぼ整然と配列されている。さらに43点までが日光(一部今市)であり、東照宮陽明門だけで7枚と、同一テーマの写真が多く含まれていることも特徴的である。こうした写真帖は、土産品、輸出品としての性格から、どうしてもさまざまな種類の写真を含んだ総花的な印象になることが多い。もちろん日光のみならず、横浜、長崎、東京など、1冊の中に地域的なまとまりがみられることはしばしばあるが、これほどに限定された内容の写真帖は多くはない。

製作過程に関しては、前述のような装釘の一致から、『ファーサリ写真帖』との関連が考えられる。背の書名は大判(第1、2冊)と同じ「ALBUM」だが、大きさや写真の番号とタイトルの記入方法は小判(第3、4冊)と類似しており、両者の特徴を兼ね備えた形状である。また、後表紙の図柄(虫草図)も上記第3、4冊と似ている。(写真③④) ちなみにこの図柄は、横浜開港資料館で所蔵する『桃太郎芝山象嵌写真帖』⁽²¹⁾とも酷似しており、これらが同じ工房で製作されたことを推測させる。

3. 『明治期写真帖』(チ9 5497)

1) 書誌的概要

大きさ：縦15.2×横19.7×厚4.7cm、折帖。

装 釘：朱地蒔絵表紙を前後に持つ。前には桜花、後は同様の桜花を中心とした花鳥図である。⁽²²⁾厚手の台紙からなる折帖は12折(24面)からなり、その両面とそれぞれの後見返に各1枚、計50枚の写真を貼り込んでいる。写真の大きさは、おおむね9.0×13.6cm程度である。番号、タイトルについては一部についてのみ黒地白抜で写真下部に記入されている。ただ、上述の『ファーサリ写真帖』

『ALBUM』のように整然と角におさまっているものは少なく、英語表記の誤字が多い。さらに日本語表記のタイトルもあり、他の写真帖とは一線を画す仕上がりとなっている。

2) 内容リスト (後掲)

3) 考 察

本書は1998年、個人から寄贈された資料である。

リストにあるように、本書には日本各地の風景写真と職業、人物写真が収められている。小型の写真全般に焼付の状態はあまり良好ではなく、彩色も稚拙である。さらに写真番号とタイトルの記入の方法にもばらつきがある。また他の写真帖に収められたものとあきらかに同じネガ、あるいはほぼ同時に撮影されたと思われるものもある(写真⑤⑥)が、サイズも小さく、前述のように英語の誤記が多いことや、裏焼があることなどから、既存の写真帖からのリプリント、今日的な表現をすれば海賊版と呼べるようなものかもしれない。²³⁾製作年代も1898年(明治31)の奠都三〇年祭のものがある(貼込順3)ので、それ以降とわかり、横浜写真としては後期の作品といえる。

4. 『寫眞帖』²⁴⁾ (HD 2144)

1) 書誌的概要

大きさ：縦24.4×横33.9×厚4.6cm、右綴。

装 釘：青灰色のクロス装、背と角に革を用いる。背表紙には、金文字で右から「寫眞帖」とある。通常の写真帖のような台紙ではなく厚口の和紙の表面に4箇所の切れ込みを入れ、そこに写真の四角を差し込む形となっている。それを表裏として薄口の和紙の間紙とともに小口部分を貼り合わせ、袋綴様にしている。²⁵⁾そのようにした49丁の表裏に彩色写真が綴じこまれている。ただ、第1丁表と4丁表、49丁の表裏には写真がなく、写真枚数は94枚となる。個々の写真の大きさは、おおよそ19.6×26.2cm程度である。また、

各写真にはすべて表裏ともに「I・P」と読める朱印が捺されており、裏面には日本語で番号と標題が記されている。(写真⑦)さらにはほとんどの写真の裏面に、何らかの記号と思われる書き込み(一部スタンプ: JAPAN、トク、ケ、など)がある。前後に遊紙が各1丁あり、前のその表に肖像写真1枚が貼られている。像主については未詳だが、裏の書きみに「川田福蔵」と記されており像主と考えるのが自然であろう。

2) 内容リスト (後掲)

3) 考 察

当館が1967年9月に購入したものである。それ以前の来歴は未詳であるが、前述の遊紙貼込の人物が成立に何らかの関与をしている可能性がある。また、本写真帖は日下部金兵衛の写真館、金幣写真館と深いかわりがあり、製作年代も金兵衛が弁天通から本町通へ移転した1890年(明治23)以降のものと推測される。その理由は、貼込順45「517. Honcho Dori, Yokohama = 第九拾号 横浜本町通」(写真⑧)にある。この写真を見ると、横浜本町通としながらも通り全体ではなく、左側の二階建の商店が主役となっている。そしてその建物の軒下の看板を注視するとそこには「幣金^(ママ) K KIMBEI」とはっきり読める。つまりこれは、通りを写したのではなく、金幣写真館を写したものである。金幣写真館といえば1906年(明治39)の火災後に再建された建物が良く知られているが、これは火災に遭う前の写真館を撮影したもので、従来あまり知られていない。金兵衛は、商品である写真の中でもしっかりと自分の店の宣伝をしていた、と言えるかも知れない。

さらに、写真番号も本写真帖が金幣写真館で作られたものだとすることを推測させる。斎藤多喜夫氏は、その著書の中で金幣写真館のカタログの概要をあげている。(表2) この表に示された項目とカタログ番号を、本写真帖の番号・内容と比較すると、ほとんど完全に当てはまる。ここから本書は、金幣写真館のネガを用いて作成されたものだとすること

がわかる。

もう一点注目したいのは、収録された写真の撮影時期である。貼込順42「514. POST OFFICE AT YOKOHAMA」の画面右手には1889年（明治22）に建てられたレンガ造の郵便局があるが、通りをはさんで向い側、画面左手は空いている。横浜開港資料館で所蔵する同構図・同番号・同タイトルの写真には、ここに1896年（明治29）に建てられた木造の洋館、生糸検査所が写っている。（写真⑨⑩）これによって、本写真帖の写真（写真⑨）が1889年から1896年の間に撮影されたものであることがわかる。と同時にこのことは、金幣写真館がある程度の時間差を置いて同構図で撮影していたことを示している。なぜそのようなことをしたのか。おそらくは、同じ写真の紙焼が払底してしまったため、または顧客に現状に近い写真を提供するためという現実的な事情によるものだったのかもしれないが、期せずしてそれは、短い間に風景が一変してゆく日本の急速な近代化を記録することにもなったのである。

本書の最大の特徴は、他の写真帖と同様、彩色写真帖ではあるが、上述のとおり蒔絵表紙、厚紙台紙貼込ではないことである。蒔絵表紙のアルバムは一名「金幣アルバム」²⁶⁾と呼ばれることもあるように、金幣写真館が早くから採用した形態である。²⁷⁾本写真帖は、収録された写真がほぼ確実に金幣写真館で所蔵していたものであるにもかかわらず、蒔絵表紙ではない。加えて背表紙の日本語書名や、冒頭には日本人と思われる人物写真が貼りこまれている。これらの点から、通常の西洋向けの写真帖ではないことが推測される。また、各写真に捺された「I・P」の印、さらには裏面の書き込みの意味について今後詳細な検討が必要である。

以上が、早稲田大学図書館が所蔵する、いわゆる“横浜写真”の概要である。写真帖の数こそ多くはないが、それぞれに個性的な興味深い内容となっていることがわかる。

さて、明治期の写真の特徴の一つとして撮影者がわかりにくい、という

点がある。個々の写真に撮影者が記録されることはなく、写真館の経営者が転々移り変わるなかで、いつ、誰が撮影したネガなのかわからなくなってしまっていることが多い。そのことは、これらについても同様である。たとえばファーサリ商会が作った写真帖だからといっても、実際にはファーサリが撮影したものではなく、その前身であるスタイルフリートやベアトの写真館で撮影されたものもあるかもしれない。それはスタイルフリートの下で働いていたと思われる日下部金兵衛が作ったアルバムについても同様である。そこで写真帖ごとの内容について、特にファーサリと金兵衛の関係を中心に若干の考察を進めてみよう。

Ⅲ. ファーサリと金兵衛

ここで一つ手がかりになるのは、写真番号とタイトルの記入法である。この点については現在、

- a. スタイルフリート＝算用数字
- b. 白井秀三郎＝算用数字＋漢数字
- c. ファーサリ商会＝アルファベット＋算用数字＋タイトル
- d. 日下部金兵衛＝算用数字＋タイトル

という推測がなされている。²⁸⁾この条件に基づいて各写真帖を確認してみると、『ファーサリ写真帖』の第1、2冊はa（タイトルを写真外に貼付）、『ファーサリ写真帖』第3冊はc、『ファーサリ写真帖』第4冊、『ALBUM』、『写真帖』はdにおおよそ当てはめることができる。当館所蔵本についてさらに付け加えるとすれば、aに分類されるものは写真の適当な場所に白文字で記されており、c、dについては写真の下角の定位置に黒地白抜で写されている。一部には白文字番号と黒地白抜の数字・タイトルの双方の条件を満たすものもあり、ネガの継承過程を推測させる材料となっている。

続いて『ファーサリ写真帖』のうち、第3、4冊には明らかな標題紙があることからファーサリ商会製と考えて間違いない。特に第3冊は番号・タイトルの表記についてもcの条件と一致しているものが多くファーサリ

商会の特徴がでている。第4冊の番号付が条件dと一致している点については後述する。第1、2冊については装釘や貼込刊記からファーサリ商会製と推測させるものがあるが確定はできない。さらに『寫眞帖』はほぼ間違いなく金幣写真館で所蔵していた写真である。

これらの事実を踏まえて、複数の写真帖で番号・タイトルが一致するものが数点あるので、それからみてゆくことにしよう。後掲の表3①によれば『ファーサリ写真帖』の第1、2冊と『寫眞帖』との間に共通する写真があることがわかる。(写真⑩⑪) 両者は番号・タイトルの記入方法が異なり、完全に同一ではないが、同じネガを使用していることは間違いない。すなわち、前者がファーサリ写真館製であるとすれば、同時代に活動していた、いわばライバル関係にあった金兵衛との間でネガの共有関係が成り立っていた、ということになる。これはいかなる事情で発生したのか、この点について考えてみよう。

まず、番号・タイトルの記入方法としては、白文字記入の前者のほうが古い形ではないかとの推測を示したが、この方法はそもそもファーサリ、金兵衛両者の共通の祖といえるスティルフリートがおこなっていたやり方ではないだろうか。ベアトから写真館を継承したスティルフリートは写真に積極的に彩色し、ネガ番号も記入したという。⁽²⁹⁾確かに横浜開港資料館が所蔵する「STILLFRIED & ANDERSEN」の商標の付いた写真帖⁽³⁰⁾に収載された写真には、『ファーサリ写真帖』第1、2冊同様白文字で番号が記入されており、この推測を裏付ける結果となっている。前述のようにファーサリはスティルフリートから写真館を継承している。だとすると『ファーサリ写真帖』の番号付で古い形を残す写真の中にはスティルフリート時代の遺産が混ざっているとは考えられないだろうか。ただ、ファーサリはスティルフリートから継承した写真館を翌年には火事で失っている。『ファーサリ写真帖』第2冊には墨竹図刊記が挿入されていたが、その住所は「横濱海岸通拾六番館」すなわち、罹災後のものである。ネガの多くを火災で焼失したとすれば、仮に焼失を免れたネガもしくは紙焼写

真があったとしてもその量は多くはないであろう。なお、本稿作製にあたって横浜開港資料館で所蔵する写真帖についても写真で内容を確認したが、館蔵の第1、2冊のように、標題紙を持たず、貼られた商標等によってそれとわかるファーサリ写真帖には古い形の番号付を用いたものが多いことが確認された。商標や刊記があとから貼られているということは、アルバム自体の製作は必ずしもファーサリ商会でなくてもよいわけである。⁶¹⁾すなわち、館蔵の第1、2冊をはじめそうした写真帖はファーサリ商会製とは言い切れず、あくまでもファーサリ商会が販売した製品ということになるのではないか。

ここでファーサリ商会の番号付の特徴を再確認しておくと、「アルファベット+算用数字+タイトル」という形であった。横浜開港資料館の写真帖に関しても館蔵の第3冊のようなファーサリの標題紙を持つものはいずれもこのパターンである。アルバムに標題紙が綴じ込まれているということは確実にファーサリが製作したということであり、このタイプの番号付を持つ写真をファーサリが所有していたということになる。おそらくは罹災後新たに収集した写真を中心としたファーサリ商会オリジナル商品なのではないだろうか。

上述のように現存するファーサリ商会製とされる写真帖には、ファーサリ商会で作られた写真帖と、ファーサリ商会が販売した写真帖の2種類あるということになる。館蔵の『ファーサリ写真帖』についてしいて分類すれば、第3、4冊は前者、1、2冊は後者ということになる。金幣写真館製のアルバムと同じ写真を含むのはすべて後者である。

さらに番号と内容に注目したとき、金幣とファーサリの間にはもう一つの共通点がある。『ファーサリ写真帖』のうち、第1、2、4冊を見るとその元番号による内容が表2にあげた金幣写真館の分類とほぼ一致しているという点である。このことはこれら3冊の写真が金兵衛と同じ分類体系にしたがって配列されていたことを推測させる。特に第4冊は黒地白抜の番号付が数字のみであり、金兵衛と同じタイプである。いよいよ金兵衛と

ファーサリがネガを共有していたという可能性が高まってきた。

現在、金幣写真館が作ったアルバムについては、主として金兵衛が撮影したと推測されている。³²⁾また、金兵衛の撮影の特徴として同じ場所で時間差をもって撮影する場合があったことを前述した。今、『ファーサリ写真帖』と『寫眞帖』を比較したとき、同様の例が発見される。すなわち、『ファーサリ写真帖』第2冊(貼込順2)と『寫眞帖』(貼込順43)がそれぞれある。(写真⑬⑭)どちらも横浜弁天通に掲げられた祭提灯を同じアングルで撮影したものだが、後者に写っている時計台(河北直蔵商店：1894年〈明治27〉築³³⁾が前者にはない。ここには同じ場所を時間差で撮影するという撮影者の明確な意図が感じられる。さらに前者は別の金幣アルバムに収載されている³⁴⁾ことから、両方とも金兵衛が撮影した可能性が高い。同じ場所を新しく撮影し、同じ番号で整理した場合、古いネガは新規撮影ネガと一緒に使い続けたか、あるいは処分したはずである。その場合の処分方法として考えられるのは、そのまま廃棄するか他へ譲渡するかであろう。となると、ファーサリが金兵衛の不要となったネガを譲渡され、自社製品として販売したのであろうか。

また、『ファーサリ写真帖』第3、4冊と同様の標題紙をもつ金幣アルバムがあることは前述した。さらに、そのアルバムには後補と思われるような年記が、標題紙のコラージュ写真の中に嵌め込まれていることも述べた。この標題紙写真についてのみ言えば、本来ファーサリ写真館で所蔵していた原板を金幣写真館が改変して使用したことになるか。

現状でははっきりとした結論をだすことはできない。ただ、推測すれば以下ようになる。

- ①ファーサリはスティルフリートからネガを継承したが、多くを火災で失った。
- ②金兵衛はスティルフリートの下で働いていた可能性があり、いわば暖簾わけのような形で独立、開業した。その際にネガを継承した可能性がある。

- ③金兵衛は同じ場所時間で時間をおいて撮影し、同じ番号で整理する。その際、古いネガが不要になる場合がある。
- ④金幣写真館で不要となったネガを用いたと思われる写真が『ファーサリ写真帖』に含まれている。
- ⑤火災後のファーサリは所有のネガだけでオリジナルの写真帖を作製する余裕がなく、他社から譲渡（貸与）された写真、ネガをつかったアルバムに自社の商標を挿入、貼付することで急場を凌いだ。

上記の推測から、ファーサリ、金兵衛に共通する写真は、スティルフリートの遺産かあるいはファーサリが金兵衛から入手した可能性が高いと言えるのではないだろうか。ただ、金兵衛からファーサリという一方的な譲渡（貸与）関係ではなく、標題紙の一致に見られるようにファーサリから金兵衛へも何らかの形でアルバム製作に関する情報・資料提供がなされていた可能性があることも考えなくてはならない。

IV. おわりに

先学の多くの研究によりながら、早稲田大学図書館で所蔵する写真帖の紹介をおこなってきた。屋上屋を架すような内容が多く、新たな解釈、知見というほどのものは紹介できなかったが、しかしいくつか新しい事実を提示できたのではないだろうか。

前述したように明治期の写真は、撮影者、撮影時期などの確定が難しい。ファーサリと金兵衛の関係だけでなく、写真館同士のネガの共有やアルバム製作にかかわる共同関係は、輸出産業としての写真アルバムといった大きな視野からの検討をはじめとして、今後さらなる調査が必要であろう。

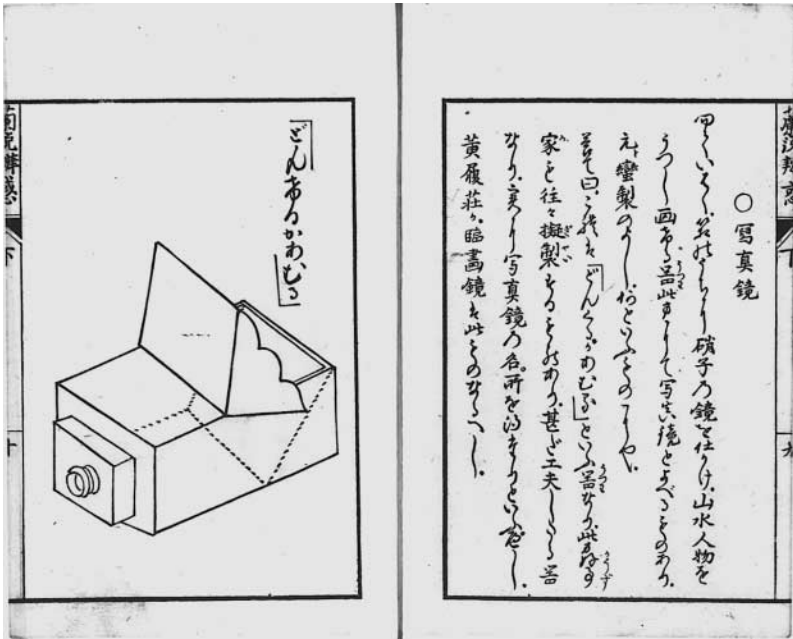
歴史研究の素材としての史料にはさまざまな形態がある。特に近代以降の研究にあたって、写真や周辺史料の果たす役割は大きい。そこにはまぎれもない現実と、意図的な虚構が表現されており、そのことがそのまま、近代史研究の史料となりうるのである。

注

- (1) 近年刊行された幕末・明治期の写真集には、
 - ①横浜開港資料館編刊『F. ベアト幕末写真集』(1988年)
 - ②東京都写真美術館・北海道立函館美術館編刊『写真渡来のころ』(1997年)
 - ③霞会館資料展示委員会編『江戸城・寛永寺・増上寺・灯台・西国巡幸 鹿鳴館秘蔵写真帖』(1997年、平凡社)
 - ④東京国立博物館編『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真資料目録』全3巻(1999-2002年、国書刊行会)
 - ⑤武部敏夫、中村一紀編『明治の日本 宮内庁書陵部所蔵写真』(2000年、吉川弘文館)
 - ⑥横浜開港資料館編『彩色アルバム 明治の日本《横浜写真》の世界』増補版(2003年、有隣堂)などがある。さらに、
 - ⑦長崎大学附属図書館編刊『幕末・明治期 日本古写真コレクション目録』(1996年)は、長崎大学附属図書館で所蔵する古写真約3900点についての詳細な目録であり、同館のホームページからその後の追加分も含めて5400点以上を画像で確認することができる。(http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/univj/)
- (2) 早稲田大学図書館には、このほかに『静岡風景写真』(E. W. クラーク撮影)、『The Far East』(一部)、『伯爵大隈家写真帖』などがある。また近年あらたに、明治期の日本の風景・風俗を撮影したステレオ写真、義和団事件写真、日清戦争写真等が収蔵された。
- (3) 以下、写真の歴史については、
 - ①ポーモン・ニューホール著、小泉定弘・小斯波泰共訳『写真の夜明け』(クラシックカメラ選書7、1996年、朝日ソノラマ)
 - ②クエンティン・バジャック著、遠藤ゆかり訳『写真の歴史』(「知」の再発見双書109、2003年、創元社)
 - ③石黒敬章『幕末・明治のおもしろ写真』(コロナ・ブックス16、1996年、平凡社)
 - ④石黒敬章『続 幕末・明治のおもしろ写真』(コロナ・ブックス45、1998年、平凡社)
 - ⑤石黒敬章『びっくりヌード・おもしろポルノ』(コロナ・ブックス96、2002年、平凡社)
 - ⑥小沢健志『幕末・明治の写真』(ちくま学芸文庫、1997年、筑摩書房)
 - ⑦小沢健志編『幕末 写真の時代』(ちくま学芸文庫、1996年、筑摩書房)
 - ⑧斎藤多喜夫『幕末明治 横浜写真館物語』(歴史文化ライブラリー175、2004年、

吉川弘文館)

- ⑩斎藤多喜夫「蓮杖&金幣」展に寄せて 蓮杖の呪縛からの解放」(『開港のひろば』85、横浜開港資料館、2004年)
- ⑪斎藤多喜夫「開港後最初の来日カメラマン—P.J. ロシエの足跡—」(『開港のひろば』86、横浜開港資料館、2004年)
- ⑫Darrah, William C. “The World of Stereographs” Gettysburg, 1977
などを参照した。特に写真技術に関しては上記⑦242～243頁「技法解説」(渡辺晋)を引用した部分がある。
- (4) 前掲注(3)①書25頁。
- (5) 暗室の一面に小穴をあけると、反対の面に外の景色が逆さに投影されるという、カメラ・オブスキュラ(暗室)の理論は西洋では風景画の写生などに利用されていた。日本では織豊期にオランダからその理論が伝えられ、鎖国下の江戸後期には、少ない情報を元に蘭学者によって研究・紹介された。たとえば大槻玄沢はその著書『蘭説弁惑 磐水夜話』(1788年〈寛政11〉)で写真鏡=どんけるかあむる(どんくるかあむる)、として図入りで解説しており(図版1)、箕作阮甫の『蛮語箋』(1848年〈嘉永元〉)にも「写真鏡 ドンクルカーメル」として紹介されている。蘭学者にとってこの理論は既知の事実であり、実際にそれを用いたと思われる人物像もある。渡辺崋山の描いた「大空武左衛門像」(原本・クリーブランド美術館蔵)がそれである。早稲田大学図書館で所蔵する摸本には滝沢馬琴の識語が付されており、そこに「是肖像当時渡辺崋山照蘭鏡以写真、吾又使亀屋文宝再摸、之因識所聞見如」とあり、ここでいう「照蘭鏡」がいわゆる写真鏡、カメラ・オブスキュラであろう(岡戸敏幸「渡辺崋山筆 大空武左衛門像」『国華』1249号参照)。また、宇田川興斎の『ポトカラヒイ』では具体的な現像、定着法が紹介されている。
- (6) 乾板写真は1871年マドックス(Maddox, Richard Leach)によって発表され、77年には工業生産されるようになり、ほどなく日本にも紹介されたものである。取り扱っても容易であり、露光時間も短い乾板は、湿板のように大掛かりな機材を持ち歩かなくてもすむ手軽さから、多くのアマチュア写真家が登場する原動力となったと言われている。
- (7) 前掲注(3)⑧書、168-176頁。
- (8) 前掲注(3)⑧書。
- (9) 従来からファサリ、ファーサリなどと呼ばれており、近年は斎藤多喜夫氏によってファルサーリとの表記も提示されているが、本稿では館蔵の写真帖が『ファーサリ写真帖』と称されていることもあり、ひとまずファーサリと表記することとした。



図版 1 「写真鏡」(大槻玄沢『蘭説弁惑 磬水夜話』)

- (10) Japan Gazette 刊。幕末から明治期にかけて日本に在住した外国人と主としてそうした人びとを相手にさまざまな商いをする日本人の住所・氏名・職業を、地域別にまとめて毎年1月に刊行されたもの。そのため内容は原則として前年の状況を反映している。1879年からは『Japan Directory』として刊行された。The China Mail Office が刊行した『China Directory』(日本を含む極東アジアの Directory) とあわせて1996-1997年ゆまに書房より『ジャパン・ディレクトリー 幕末明治在日外国人・機関名鑑』として復刻されている。
- (11) 玉村康三郎(1856-?)は、江戸根岸の生まれ、1868年(明治元)に写真師金丸源三の弟子となり、1874年(明治7)に浅草で独立開業した。その後、1882年(明治15)には横浜に移転、外国人向けの肖像・風景写真の販売・輸出をてがけた。ファーサリと別れた後もアメリカへの大量輸出をおこなうなど、積極的に活動した。当初玉真堂、のちに玉村写真館と名称を変更し、大正期にいたるまで盛況を極めた。
- (12) 横浜写真社は1884年(明治17)に白井秀三郎が開業した写真館である。白井は、横浜における草創期の写真師下岡蓮杖の弟子。白井はこの後も別の場所で営業を

- 続けていたようで、写真館売却時にネガも一緒にファーサリの手に渡ったかどうかは不明である。もし、多少なりともそういうことがあったとすると、ファーサリ商會が作った写真帖に横浜写真社撮影のものが含まれている可能性もある。
- (13) 外務省編『続通信全覽』船艦門・海外航「雑伎人米国行免許一件 外十一件」のうち、「英国商人ビアト雇小使上海行免許一件 丁卯十月」(1987年、雄松堂出版復刻)。
- (14) 中村敬宇編『横浜商人録』(1881年、大日本商人録社)の「写真商之部」に「横浜区弁天通二丁目三十六番地 日下部金之助」の名前が見える。住所から、おそらくこれは金兵衛のことと考えられる。
- (15) 当初はベアトのもとで仕事を続け、さらにベアトの写真館がスティルフリートに移譲されるにいたり、継続して勤務していた可能性もある。
- なお、日下部金兵衛については、「明治を写した日下部金兵衛―清新な「横浜写真の世界」―」(横浜市編刊『市民グラフ ヨコハマ』No. 64、1988年)に詳しい。
- (16) 芝山象嵌は、着色した象牙、貝、鼈甲、珊瑚などを漆、象牙製の器物に象嵌する装飾技法。江戸時代後期に江戸の芝山仙蔵是政が創始、明治時代には、西洋人向けの輸出工芸品、香炉・花瓶・アルバム・衝立・屏風等に広く用いられた。東京国立博物館他編『2005年日本国際博覧会開催記念展 世紀の祭典 万国博覧会の美術 パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東西の名品』(2004年、NHK 他刊) 62、63頁参照。
- (17) 青木枝朗「A・ファーサリ 日本写真帖」(『早稲田大学図書館紀要』第5号、1963年)。
- (18) ドン・ブラウン氏についてはその蔵書が横浜開港資料館に収蔵されており、近年目録が刊行された。横浜開港資料館編刊『横浜開港資料館蔵 ドン・ブラウン・コレクション書籍目録』(2004年)。
- (19) 『Japan Directory』1891年版に掲載された金幣写真館の広告には「Albums filled to order, made up with Choice Pictures」とある。
- (20) 当時の写真館の社員構成については、『Japan Directory』1891年版にファーサリ写真館の陣容が記されている。それによれば、社主であるファーサリ以外はほとんどが日本人の職人から構成されていることがわかる。
- (21) 横浜開港資料館の斎藤多喜夫氏によれば本写真帖は現在玉村写真館製の箱に入っているという。本文中に述べたようにファーサリと玉村は共同経営から対立へとその関係を変えていった。このアルバムが玉村写真館製だとすれば、彩色アルバムの大きな特徴である芝山象嵌という特殊な装釘は、そうした対立とは関係なく多くの写真館に用いられたことを推測させる。
- (22) 折帖である本書の前後については、標題紙がないため判然としない。ここでは

当館受入時の順に従ったが、表紙の図柄からすると、前後は逆と考えたほうがよいかもしれない。

- (23) 当時から「他人の写真を複製してアルバムに仕立てた海賊版がかなり存在」しており、「一流の写真家であっても、他人の作品を複製することが全くなかったとは断言できない」（前掲注(1)⑥書、262頁）。
- (24) 本稿ではしばしば「写真帖」という言葉を使っているため、本書を示す個別の資料名としてはあえて旧字をそのまま残し『寫真帖』とした。
- (25) 本写真帖についても表紙の前後がわかりにくい。当館での受入時には左綴の資料として扱ったが、それだと写真のない丁が冒頭にくることになる。貼込の順序も右綴と考えたほうが、東京－横浜－箱根－周辺各地と、整然と並ぶ。そこで本稿では、右綴として記載した。
- (26) 前掲注(3)⑧書、184頁。
- (27) 『Japan Directory』1887年版のK. KIMBEI（弁天通27番地）の広告には「ALBUMS OF FOREIGN AND JAPANESE STYLE WITH LACQUERED BOARD OR CLOTH COVER ALWAYS READY FOR SALE」とあり、漆塗表紙のいわゆる“金幣アルバム”とともに布装のアルバムも販売していたことがわかる。ただ1891年版になるとアルバムの装釘については「Richly Lacquered and Tastefully painted in gold,& c., and strongly bound」となり、布装は販売せず、“金幣アルバム”専門になったようである。
- (28) 前掲注(1)⑥書、262頁。
- (29) 前掲注(3)⑧書、160頁。
- (30) 横浜開港資料館蔵。請求記号：AC1-137。商標は前遊紙裏に切手大の写真で貼付されている。このことは横浜開港資料館の斎藤多喜夫氏にご教示いただいた。
- (31) 青木枝朗氏は「大型の写真帖に表題紙が欠けているのは、白井氏などの日本人の店で作られた写真帖を買入れて、前もって用意したファーサリ商会の名入りの薄葉をそれに挟んで売出していたのかもしれない」と述べている。前掲注(17)論文、172頁参照。
- (32) 前掲注(1)⑥書258-262頁「推定撮影者一覧」参照。
- (33) 前掲注(1)⑥書16-17頁参照。
- (34) 前掲注(1)⑥書16頁49番写真。この写真は金兵衛撮影と推定されており、黒地白抜で「520 Benten Dori, Yokohama」と記入されている。

〈付記〉

本稿作製にあたって、資料の閲覧、掲載に便宜をはかってくださった横浜開港資

早稲田大学図書館所蔵 明治期彩色写真帖

料館、長崎大学附属図書館に対し、心より謝意を申し述べる。特に横浜開港資料館の斎藤多喜夫氏には多くのことをご教示いただいた。あらためて御礼申し上げる次第である。(2004年10月4日成稿)

(ふじわら・ひでゆき 図書館資料管理課)

館蔵写真帖リスト

タイトルは現物に記載されているとおりとし、誤字・脱字もそのままとした。
 () は筆者が補記したものを。

1. 『ファーサリ写真帖』(HD 1955 1-4)

第1冊

貼込順	元番号	タイトル	貼込順	元番号	タイトル
1-1	566	THEATRE STREET YOKOHAMA	1-25	1207	NUNOBIKI YAMA (HILL) KOBE
1-2	556	VIEW OF BUND, AT YOKOHAMA	1-26	1218	VIEW OF AWAJI-SHIMA, INLAND SEA
1-3	530	CREEK, YOKOHAMA	1-27	1227	VIEW OF OSAKA CASTLE
1-4	1020	DAIBUTSU, BRONZE IMAGE AT KAMAKURA	1-28	1318	VIEW OF GOJIOZAKA, OTANI, AT KIOTO
1-5	1010	VIEW OF YENOSHIMA	1-29	1337	KINKAKUJI GARDEN, AT KIOTO
1-6	954	Sanmai Bashi (Bridge) near Yomoto	1-30	1346	VIEW OF RAPIDS, AT KIOTO
1-7	964	Fujiya Hotel at Miyanoshita	1-31		VIEW OF NAGASAKI
1-8	975	VIEW OF KIGA	1-32	5	DANCING PARTY
1-9	989	VIEW OF HAKONE LAKE	1-33	142	SAMURAI IN ARMOUR
1-10	908	FUJIYAMA FROM KAWAIBASHI, AT TOKAIDO	1-34	40	GIRL
1-11	905	A. COUNTRY BRIDGE (英文解説付)	1-35	16	WIND COSTUME
1-12		VIEW OF IKEGAMI PAGODA	1-36	38	SAMURAI
1-13	668	CHERRY FLOWER, UYENO, TOKIO	1-37	153	JAPANESE TATTOO
1-14	600 (?)	SHIBA TEMPLE TOKIO	1-38		PILGRIM GOING UP FUJIYAMA
1-15	712	HORIKIRI, IRIS FLOWER GARDEN AT TOKIO	1-39	158	COOLIE FOR GONVEYING PILGRIMAGE'S PARCELS AT FUJIYAMA
1-16	621	VIEW OF TOKIO CASTLE WALL, & LOTUS FLOWER	1-40	201	WATER COOLIE
1-17	751	VIEW OF IMAICHI, AT NIKKO ROAD	1-41	229	HAIR-DRESSING IN JAPANESE STYLE
1-18	759	PAGODA, AT NIKKO	1-42	11	PLAYING SAMISEN TSUDZUMI FUYE & TAIKO
1-19	765	BELL OF NIKKO	1-43	217	GROUP OF CHILDREN
1-20	1635	CHIUSENJI LAKE, AT NIKKO	1-44	34	JINRIKISHIA
1-21	17	Oiwake (Tea House) at Nakasendo	1-45	49	KAGO, TRAVELLING CHAIR
1-22	850	SHINTO TEMPLE, KARAMON (GATE) AND HOKOGATAKI ROCK AT HARUNA	1-46	200	VEGETABLE PEDLAR
1-23	1151	VIEW OF KAKEHASHI, KISOGAWA RIVER ON THE NAKASENDO	1-47		BASKET SELLER
1-24	1164	NAGOYA CASTLE	1-48	89	SLEEPING GIRLS
			1-49	141	PLANTING RICE
			1-50	43	POUNDING RICE

第2冊

貼込順	元番号	タイトル
2-0		ファサリ商会 墨竹園 (貼込刊記)
2-1	515	NOGE HILL CHERRY FLOWER, STREET YOKOHAMA
2-2	520	BENTEN DORI YOKOHAMA
2-3	526	100 STEPS AT YOKOHAMA
2-4	1025	SHINTO TEMPLE HACHIMAN, AT KAMAKURA
2-5	1016	VIEW OF YENOSHIMA
2-6	957	VIEW OF TONOSAWA
2-7	963	VIEW OF MIYANOSHITA, HOT-SPRING
2-8	1662	VIEW OJIGOKU OR GREAT BOILING SPRINGS, HAKONE
2-9	985	VIEW OF HAKONE LAKE
2-10	978	Miyagino River near Kiga
2-11	902	VIEW OF FUJIYAMA
2-12	903	SHIRAITO WATERFALL, AT FUJIYAMA
2-13	669	SHINOBADSU (POND) UYENO TOKIO
2-14	616	SHIBA TEMPLE, TOKIO
2-15	700	OJI TEA HOUSE GARDEN AT TOKIO
2-16	634	THE DOUBLE BRONZE IMAGES, ASAKUSA, TOKIO
2-17	706	CHERRY FLOWER UYENO, TOKIO
2-18	1554	VIEW OF SACRED BRIDGE, AT NIKKO
2-19	760	STOREHOUSE FOR TREASURE AT NIKKO
2-20	667	YOMEI MON (GREAT GATE), AT NEKKO
2-21	800	CHIUSENJI LAKE, AT NIKKO
2-22	1110	200 STEPS NAKANOTAKE, MIOGI MOUNTAIN
2-23	1127	SHIMONO SAWA (TEA HOUSE) AND FIRE BELL AT NAKASENDO
2-24	1208	METAKI (WATERFALL) AT KOBE
2-25	1220	VIEW OF ARIMA
2-26	1225	TEN-NOJI TEMPLE AT OSAKA

貼込順	元番号	タイトル
2-27		VIEW OF KIOTO
2-28	1331	VIEW OF GINKAKUGE GARDEN, AT KIOTO
2-29	1345	VIEW OF RAPIDS, AT KIOTO
2-30	1430	VIEW OF KINTAI BASHI BRIDGE AT IWAKUNI
2-31		PAPENBERG NAGASAKI
2-32	265	MIKO OR PERFORMER IN A KAGURA
2-33		CARRYING BABY
2-34	32	GENERAL
2-35	172	HAIR DRESSING
2-36	53	SHINTO PRIEST
2-37		BUDDHIST PRIESTS
2-38		GIRL IN WINTER COSTUME
2-39		COOLIE WINTER DRESS
2-40	123	DANCING PARTY
2-41	212	GIRLS PLAYING KOTO AND SAMISEN
2-42	7	JINRIKISHIA
2-43	8	KAGO, TRAVELLING CHAIR
2-44	64	WEAVING SILK
2-45		TEA-PICKING
2-46	103	SELLING FLOWERS
2-47	62	PACK HORSE
2-48	45	BRIND SHAMPOOER
2-49	58	CUTTING RICE
2-50		SAMURAI IN ARMOUR

第3冊

貼込順	元番号	タイトル
3-0		"JAPAN" A FARSARI & CO. YOKOHAMA (標題紙)
3-1	M2	PAPENBERG ROCK
3-2		(港)
3-3		(鳥居と海)
3-4	F63	BUND, KOBE
3-5	F64	NUNOBIKI, KOBE
3-6	F60	TENNONJI, OSAKA
3-7	F59	ON THE GRAND CANAL, OSAKA
3-8	F48	PARK, NARA
3-9	F46	NARA
3-10	F2	KITANO
3-11	F4	KINKAKUJI
3-12	F5	PINE TREE, KINKAKUJI
3-13	F6	KINUKASAYAMA
3-14	F8	KOSHIOJI
3-15	F16	INARI
3-16	F17	DAI BUTSU BELL
3-17	F20	ROKAKUDO
3-18	F22	OTANI
3-19	F29	GION MACHI
3-20	F30	MARUYAMA
3-21	F41	RAPIDS NEAR KIOTO
3-22	K1	ENGLISH HATOBA
3-23	K10	YOKOHAMA
3-24	K14	100 STEPS
3-25	K4	MISSISSIPI BAY
3-26	L16	HACHIMAN (A)
3-27	L19	DAI BUTSU (A)
3-28	G5	TONOSAWA
3-29	G10	SHIRABE CASCADE, DOGASHIMA
3-30	G6	MIYANOSHITA
3-31	G13	KIGA
3-32	G19	OTOMETOGE
3-33	G20	FUJIYAMA
3-34	G23	ASHINOYU
3-35	G27	HAKONE LAKE
3-36	G28	HAKONE
3-37	G33	GOKEN, HAKONE
3-38	L34	TAMAGAWA

貼込順	元番号	タイトル
3-39	H18	SHIBA CHOKUGAKU MON (BACK)
3-40	H21	IYETSUGU'S KARAMON
3-41	H31	UYENO (裏焼カ)
3-42	H36	ASAKSA PAGODA
3-43	A2	NIKKO KAIIDO
3-44	A8	THE SACRED BRIDGE
3-45	A12	THE TORII, IYEYASU
3-46	A18	THE HOLY-WATER CISTERN
3-47	A24	YOMEIMON (BACK), IYEYASU
3-48	A28	KARAMON, IYEYASU
3-49	A31	ISHIDAN, IYEYASU
3-50	A33	IYEYASU'S TOMB

第4冊 (元番号の*は白文字直書)

貼込順	元番号	タイトル	貼込順	元番号	タイトル
4-0		"JAPAN" A FARSARI & CO. YOKOHAMA (標題紙)	4-38	153	SERVANT
4-1	C12	YODA BRIDGE	4-39	168*	(娘)
4-2	K13	CHERRY BLOSSOMS (SPRING)	4-40	150	AMMA
4-3	H35	IRIS, SUMMER	4-41	165	RAIN COATS
4-4	H43	MAPLES (AUTUMN)	4-42	159	SISTERS
4-5	K11	SNOW (WINTER)	4-43	158	BROTHERS
4-6	148	FERRY BOAT	4-44	178	THE SAMISEN
4-7	146	KAPPORE	4-45	134	8 YEARS OLD
4-8	199*	(夫婦と子供2人)	4-46		(娘)
4-9	198*	(1881年日蓮没後600年遠忌・池 上本門寺)	4-47		(娘)
4-10	164	ACROBATS	4-48	67*	(髪形)
4-11	140	FENCING	4-49		(髪形)
4-12		(駕籠)	4-50		(老夫婦)
4-13	171*	(人力車・女性2人乗り)			
4-14	114	RICE FIELDS			
4-15	117	TRANSPLANTING RICE			
4-16	186	WRESTLERS			
4-17	187	WRESTLERS			
4-18	145	IN BED			
4-19	121	MARRIAGE			
4-20	180	SPINNING COTTON			
4-21	174	FLOWER LESSON			
4-22		(長火鉢に女性3人)			
4-23	157	OJINGI			
4-24	154	COOK HOUSE			
4-25	176	DINNER			
4-26	101	TRELLIS OF WISTARIA			
4-27	156	CHERRY BLOSSOMS			
4-28	128	SHINTO PRIEST			
4-29	129	BUDDHIST PRIESTS			
4-30	104	GORIKI			
4-31	162	A LOVE LETTER			
4-32	149	AT THE TOILET			
4-33	133	HAIR DRESSING			
4-34	166	4 GRACES			
4-35	135*	(三味線)			
4-36	102	CARRYING CHILDREN			
4-37	167	WASHING CLOTHES			

2. 『ALBUM』

(日光等写真帖 HD 1955 5)

*は、白文字直書もあわせて存在するもの。

貼込順	元番号	タイトル	貼込順	元番号	タイトル
1	No.302	IMAICHI ROAD TO NIKKO	31	No.314	DAINICHIDO GARDENS AT NIKKO
2	No.312	IMAICHI AT NIKKO	32	968	STONE STEPS, IYEFASU NIKKO
3	No.295	SACRED BRIDGE AT NIKKO	33	No.427	GATE OF EAIMITSU AT NIKKO
4	No.429	SACRED BRIDGE AT NIKKO	34	No.271	STONE IDOL AT NIKKO
5	No.521	SACRED BRIDGE AT NIKKO	35	349	GAMAN RIVER AT NIKKO
6	219	SORINTO AT NIKKO	36	No.348*	URAMI FALLS AT NIKKO
7	212	NIKKO	37	315	URAMI FALLS AT NIKKO
8	No.273	GARDEN AT MANGANJI NIKKO	38	No.382	ICHINOTAKI FALLS NIKKO
9	No.437	MANGANJI AT NIKKO	39	317	KEGON CHUZENJI
10	361	NIKKO	40	316	NIKKO RIVER
11	No.425	NIKKO	41		(中禅寺湖畔)
12	No.367	YOMEIMON GATE OF NIKKO	42	303	IMAICHI ROAD TO NIKKO
13	No.430	SANJINKO "TREASURE HOUSE" AT NIKKO	43	313	ROOD AT NIKKO
14	279	YOMEIMON DATE OF NIKKO	44	No.218	HARUNA
15	No.357	YOMEIMON GATE OF NIKKO	45	294*	HARUNA
16	No.213	NIKKO	46	301*	HARUNA
17	No.358	COREAN BRONZE LANTERN NIKKO	47	481	TAMAGAWA *
18	No.360	YOMEIMON GATE OF NIKKO	48	1021	FUJI FROM KOZU
19	No.359	YOMEIMON GATE OF NIKKO	49	1024	KOZU
20	No.364	YOMEIMON GATE OF NIKKO	50	1003	TOKAIDO
21	No.346	YOMEIMON GATE OF NIKKO			
22	No.296*	KARAMON. NIKKO			
23	No.365	KARAMON AT NIKKO			
24	No.363	KARAMON AT NIKKO			
25	No.355	KARAMON AT NIKKO			
26	No.436	PAGODA AT NIKKO			
27	No.347	TOMB EAIYASU SHOGUN NIKKO			
28	No.354	GATE OF EAIMITSU AT NIKKO			
29	No.356	JAPANESE IDOL AT NIKKO			
30	No.353	DAINICHIDO GARDENS AT NIKKO			

3. 『明治期写真帖』(チ9 5497)

貼込順	元番号	タイトル
1		SCRD BRIDGE AT NIKKO
2		(日光東照宮)
3	8	BRIDGE [] TOKIO NIHO [NBASHI] (奠都三十年祭)
4		(鯉のぼり)
5	A253?	IRIS GARDEN IN HORIKIRI, TOKYO
6		(神社本殿)
7		(鯉のぼり)
8		(横浜永楽町神風楼)
9		BONDO AT YOKOHAMA (裏 焼か?)
10		GURAIMO HOTEL
11		(巨木)
12		富士白糸瀧
13		FUJIYAMA
14		(長屋)
15		DOGASHIMA WATER FALL HAKONE
16		KINKAKUJI, KIOTO
17	950	SARUSAWA AT NARA
18		(滝)
19		(オリエンタルホテル)
20		(長崎・港)
21		(神社)
22	B220	NAKAJIMA NAGASAKI
23	B201?	TAKABOKOJIMA NAGASAKI
24	B203	NEZUMIJIMA ENTER OF NAGASAKI
25		SUWA TEMPLE NAGASAKI
26		(女性5人)
27		(人力車)
28		SHIJOGAWARA KIOTO
29		(茶店の人力車)
30		(桜並木と人力車)
31		(女性4人)
32		(花売)
33		(三味線と立花)
34		(女性・読書)
35		(裸婦)
36	No.9	YOKOHAMA
37		(旅支度)
38		(女性3人)
39		(野菜売)

貼込順	元番号	タイトル
40	A63i?	OVERTURN RIKISHA
41		(雨の日の女性)
42		(女性と子供)
43		(貝拾い)
44		(女性・手紙を読む)
45		(女性・踊)
46		(女性3人)
47		(女性2人)
48		(女性・洗い髪)
49		(女性)
50		(女性)

4. 『寫眞帖』 [Japan : a photographic album] (HD 2144)

貼込順	元番号	タイトル	裏番号	裏面日本語名称。〈 〉はルビ、() は補記
0		川田福蔵肖像写真		
1	691	SHOKONSHA, KUDAN, TOKYO	1	東京九段招魂社
2	608	Temple Gate Shiba Tokio	15	東京芝 (家継靈廟・有章院)
3	613	BRONZE GATE & TOMB OF IYETSUGU AT SHIBA TEMPLE TOKIO	14	東京芝 (増上寺・家宣宝塔)
4	710	SHOGUN TEMPLE HAIDEN SHIBA, TOKIO	13	東京芝拝殿
5	657	TOMB OF 47 RONIN SENGAKUJI TOKIO	10	東京千覚寺
6	605	500 Stone Lanturns Shiba Tokio	21	東京芝
7	623	GARDEN STREET SHIBA, TOKYO	38	東京芝ガーデン (増上寺門前)
8	648	UYENO PARK TOKIO	18	上野公園
9	675	SHOGUN TEMPLE, UYENO, TOKIO	17	上の
10	708	THE GREAT HIGH BUILDING AT ASAKUSA TOKIO	80	浅草一のビルディング (凌雲閣)
11	638	ASAKUSA TEMPLE TOKIO	19	東京浅草
12	665	CHERRY PARK UYENO, TOKIO	78	上の公園
13	674	CHERRY PARK, UYENO TOKIO	39	上野公園
14	664	UYENO PARK, TOKIO	36	上野公園
15	628	TSUKIJI, TOKIO	75	東京築地〈ツキジ〉
16	636	HOUSE BOAT, MUKOJIMA TOKIO	40	東京向島
17	637	Autumn View of Maples, Oji TOKIO	32	東京王子
18	720	WISTERIA AT KAWAIDO, TOKIO	69	東京
19	641	WISTERIA AT KAMEIDO, TOKIO	76	東京亀井戸
20	669	SHINOBAZU (POND) UYENO, TOKIO	77	東京不忍池
21	679	OCHANOMIZU BRIDGE & CATHEDRAL TOKIO	79	東京お茶の水
22	625	SHINBASHI RAILWAY STATION TOKIO	73	東京新橋駅
23	896	Fujiyama from Gotenba	33	御殿場より富士
24		(桜並木と人力車)	16	
25	615	TEMPLE []	12	
26	912	FUJIYAMA FROM GOTENBA	35	御殿場より富士を望む
27	1025	Shinto Temple Hachiman Kamakura	5	鎌倉八幡宮
28	1024	KAMAKURA	7	鎌倉
29	1018	Daibutsu Bronze Image Kamakura	6	奈良大仏 (実際は鎌倉)
30	1037	Shinto Temple Hachiman Kamakura	8	鎌倉八幡
31	1028	Large Bill KAMAKURA	20	鎌倉 (円覚寺洪鐘)
32	552	Foreign Cemetery Yokohama	9	横浜
33	524	ENTRANCE TO TEMPLE, NOGEYAMA YOKOHAMA	11	横浜野毛山
34	542	Mississippi Bay Near Yokohama	31	横浜
35	573	BLUFF YOKOHAMA	51	横浜
36	510	YOKOHAMA	61	横浜

貼込順	元番号	タイトル	裏番号	裏面日本語名称。〈 〉はルビ、()は補記
37	502	ENGLISH HARBOR AT YOKOHAMA	63	横浜
38	544	Railway Station, Yokohama	64	横浜駅
39	553	Grand Hotel, Yokohama	65	横浜グランドホテル
40	524	Bluff Garden, Yokohama	66	横浜
41	513	GERman Club, Yokohama	72	横浜
42	514	POST OFFICE AT YOKOHAMA	74	横浜郵便局
43	520	FESTIVAL LANTERNS, BENTENDORI YOKOHAMA	85	横浜弁天通
44	566	Theatre Street, Yokohama	89	横浜
45	517	Honcho Dori, Yokohama	90	横浜本町通(金幣写真館)
46	504	WHARF, YOKOHAMA	91	横浜
47	555	CUSTOM HOUSE & PIER, YOKOHAMA	92	横浜
48	575	HANAZONO BRIDGE YOKOHAMA	94	横浜花園橋
49	1665	HAKONE VILLAGE	71	箱根
50	1669	HAKONE VILLAGE & PALACE	84	箱根
51	1667	HAFUYA HOTEL HAKONE	86	箱根ハフヤホテル
52	1000	HAKONE, LAKE	2	箱根
53	998	HAKONE LAKE	3	箱根
54	1682	GONGEN TEMPLE HAKONE	4	箱根
55	1664	Fujiyama from Hakone Lake	23	箱根より富士を望む
56		OJIGOKU, HAKONE	25	箱根、大地獄
57	1661	GONGEN ROAD HAKONE	28	箱根、権現街道
58	1662	HAKONE LAKE	50	箱根
59	1672	Mikado Palace Hakone	52	箱根
60	981	VIEW OF YUNOHANASAWA AT HAKONE	68	箱根湯の花沢
61	4	KAGO, TRAVELLING CHAIR HAKONE ROAD	93	箱根
62	1042	HIGUCHI TOTEL AT ATAMI	57	熱海樋口ホテル
63	1017	SUZUMEIWA ROCK AT ATAMI	22	熱海
64	960	MIYANOSHITA ROAD NEAR YUMOTO	24	湯元～宮の下街道
65	1048	NISHIKIURA AT ATAMI	27	熱海、錦浦
66	957	TAMADARE WATERFALL AT YUMOTO	45	湯元
67	1043	HIGUCHI HOTEL'S GARDEN, ATAMI	46	熱海
68	904	Fujiyama from Numagawa Tokaido	30	東海道沼川
69	906	Fujiyama from KawaibASHI TOKAIDO	58	東海道河井橋より富士を望む
70	1004	SAKAIGI TOKAIDO	60	東海道酒井義<ギ>(境木=武相国境)
71	961	INSIDE TEA HOUSE TONOSAWA	81	東海道トの沢
72	891	FUJIYAMA FROM TEA PLANTATION SHIZUOKA TOKAIDO	67	東海道静岡の茶摘みつゝ富士を望む
73	976	RESIDENCE OF CAVE AT DOGASHIMA	82	洞ヶ島
74	989	VIEW OF KIGA ROAD	26	木曾、街道
75	977	MIYANOSHITA RIVER	29	宮の下

貼込順	元番号	タイトル	裏番号	裏面日本語名称。〈 〉はルビ、()は補記
76	902	Fujiyama from Omiya Village	34	大宮より富士を望む
77	895	REFLECTED SCENE OF FUJIYAMA FROM TAGONOURA	37	田子の浦より富士を望む
78	980	MIYANOSHITA & DOGASHIMA	41	宮の下～洞ガ島
79	1015	CAVE IN ENOSHIMA	42	江の島
80	951	VIEW OF MIYANOSHITA ROAD AT TONOSAWA	43	トノ沢
81	629	CHERRY BANK AT KOGANEI	44	小金井
82	903	Shiraito WATERFALL FUJIYAMA	47	白糸の滝
83		(温泉)	48	
84	956	YUMOTO	49	湯元
85	984	KIGA	53	木曾
86	971	Naraya Hotel Miyanoshita	54	宮の下ホテル
87	982	VIEW OF SOKOKURA	55	底倉
88	963	CATHEDRAL AT TONOSAWA	56	トの沢
89	1043	YOKOSUKA	59	横須賀
90	1035	KANASAWA	62	金沢
91	905	A Country Bridge Fujikawa	70	藤川の田舎橋
92	966	MIYANOSHITA HOT SPRING	83	宮の下
93	1033	TEA HOUSE AT KANAZAWA	87	金沢
94	1013	KANAZAWA ROAD	88	金沢

(表1) 横浜写真館の系譜

本文注(3)⑧書、注(10)書他参照。本稿に関連する4名にしぼって記述した。太字は複数名に関する事項。

	F. ベアト	R. スティルフリート	A. ファーサリ	日下部金兵衛
1863年頃	Beato and Wirgman, Artists and photographers (横浜居留地24番地・C.ワーグマンとの共同経営)			
1866年	スタジオ類焼。			
1867年	上海行(日下部金兵衛同行)			F. ベアトの上海行に助手として同行。
1870年頃	F. Beato & Co., photographers (居留地17番地・単独経営)			
1871年 8月		横浜に写真館開設。		
1875年		日本写真社 (Japan Photographic Association)となる。		
1876年		アンデルセン (Andersen, Hermann) との共同経営となる。		
1877年 1月14日		スタジオ焼失。		
1877年 1月23日	ベアトの写真館がスティルフリートに移譲される。			
1878年		R. スティルフリート、日本写真社を退社。		
1879年			サージェント・ファーサリ商会 (Sargent, Farsari & Co.) の経営に参加。タバコ、文具等とともに風景写真も取り扱う	
1881年				このころまでに横浜弁天通に写真館を開業。商号は金幣。
1883年		アンデルセンとの経営権をめぐる混乱の後、F. スティルフリート (Franz、ライムントの兄、1879年来日) が日本写真社の経営権を取得。		

		ファーサリに写真館を譲渡、フランツ離日。		
1885年			ファーサリ商会 (Farsari & Co.,) 創 始(玉村康三郎との 共同経営)	
1886年 2月9日			写真館全焼、ネガも 焼失。	
1886年頃			横浜写真社(白井秀 三郎・居留地16番 地)を買収か?	
			中山道を中心とした 撮影旅行。	
1890年			ファーサリ、イタリ アへ帰国、写真館は 継続。	
				この頃、本町1丁目 に移転。(写真⑧参 照)
1906年 12月				近隣の火災で類焼。
1907年 6月				写真館再建。

(表2) 金幣写真館のカタログ概要

項 目	原 題	カタログ番号	点数
風俗・習慣	Costumes	1-406	406
養蚕	Feeding Silk Worm	S1-S10	10
横浜	Yokohama	501-586	86
東京	Tokio	601-733	133
日光	Nikko	751-797	47
伊香保・足尾・富士山	Ikao, Ashio & Fujiyama	850-925	76
宮ノ下・箱根	Miyanoshita & Hakone	950-987	38
江ノ島・鎌倉・熱海・御嶽	Yenoshima, Kamakura, Atami & Mitake	1001-1066	66
中山道	Nakasendo	1101-1169	69
神戸・大阪・琵琶湖・奈良	Kobe, Osaka, Biwa Lake & Nara	1201-1280	80
京都・宮島・松島	Kioto, Miyajima & Matsushima	1301-1397	97
長崎	Nagasaki	1398-1450	53
日光(新シリーズ)	Nikko (New Series)	1551-1639	89
濃尾地震	Earthquake View	E1-E24	24
合 計			1274

本文注(3)⑧書、185頁より転載

(表3①) 番号・写真が同一のもの

番号	タイトル	アルバム (貼込順)
1	566 Theatre Street, Yokohama	『寫眞帖』(44)
	566 THEATRE STREET YOKOHAMA	『ファーサリ写真帖』第1巻(1)
2	669 SHINOBAZU (POND) UYENO, TOKIO	『寫眞帖』(20)
	669 SHINOBADSU (POND) UYENO TOKIO	『ファーサリ写真帖』第2巻(13)
3	902 Fujiyama from Omiya Village	『寫眞帖』(76)
	902 VIEW OF FUJIYAMA	『ファーサリ写真帖』第2巻(11)
4	903 Shiraito WATERFALL FUJIYAMA	『寫眞帖』(82)
	903 SHIRAITO WATERFALL, AT FUJIYAMA	『ファーサリ写真帖』第2巻(12)
5	905 A Country Bridge Fujikawa	『寫眞帖』(91)
	905 A COUNTRY BRIDGE	『ファーサリ写真帖』第1巻(11)
6	1025 Shinto Temple Hachiman Kamakura	『寫眞帖』(27)
	1025 SHINTO TEMPLE HACHIMAN AT KAMAKURA	『ファーサリ写真帖』第2巻(4)

(表3②) 番号は同一だが写真が違うもの

番号	タイトル	アルバム (貼込順)
1	8 BRIDGE [] TOKIO NIHO [NBASHI]	『明治期写真帖』(3)
	8 KAGO, TRAVELLING CHAIR	『ファーサリ写真帖』第2巻(43)
2	153 JAPANESE TATTOO	『ファーサリ写真帖』第1巻(37)
	153 SERVANT	『ファーサリ写真帖』第4巻(38)
3	158 COOLIE FOR GONVEYING PILGRIMAGE'S PARCELS AT FUJIYAMA	『ファーサリ写真帖』第1巻(39)
	158 BROTHERS	『ファーサリ写真帖』第4巻(43)
4	212 NIKKO	『ALBUM』(7)
	212 GIRLS PLAYING KOTO AND SAMISEN	『ファーサリ写真帖』第2巻(41)
5	520 FESTIVAL LANTERNS, BENTENDORI YOKOHAMA	『寫眞帖』(43)
	520 BENTEN DORI YOKOHAMA	『ファーサリ写真帖』第2巻(2)
6	524 ENTRANCE TO TEMPLE, NOGEYAMA YOKOHAMA	『寫眞帖』(33)
	524 Bluff Garden, Yokohama	『寫眞帖』(40)
7	957 TAMADARE WATERFALL AT YUMOTO	『寫眞帖』(66)
	957 VIEW OF TONOSAWA	『ファーサリ写真帖』第2巻(6)
8	963 CATHEDRAL AT TONOSAWA	『寫眞帖』(88)
	963 VIEW OF MIYANOSHITA HOT SPRING	『ファーサリ写真帖』第2巻(7)
9	989 VIEW OF KIGA ROAD	『寫眞帖』(74)
	989 VIEW OF HAKONE LAKE	『ファーサリ写真帖』第1巻(9)
10	1024 KOZU	『ALBUM』(49)
	1024 KAMAKURA	『寫眞帖』(28)
11	1043 HIGUCHI HOTEL'S GARDEN, ATAMI	『寫眞帖』(67)
	1043 YOKOSUKA	『寫眞帖』(89)
12	1662 HAKONE LAKE	『寫眞帖』(58)
	1662 VIEW OJIGOKU OR GREAT BOLLING SPRINGS, HAKONE	『ファーサリ写真帖』第2巻(8)



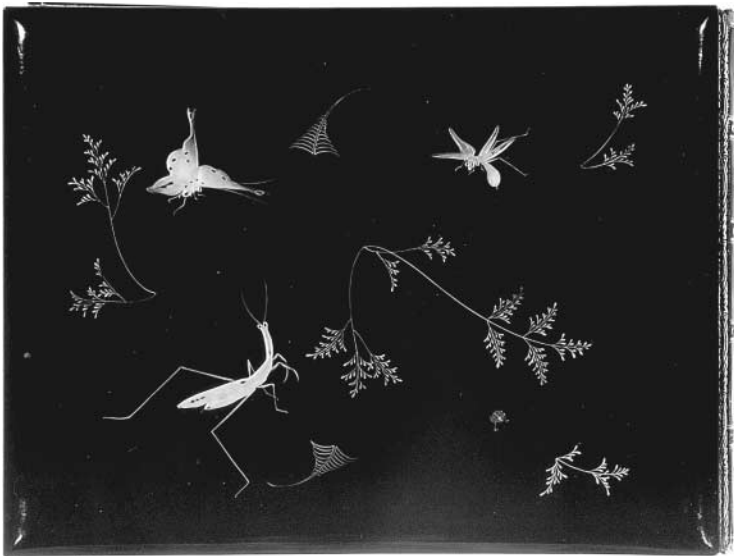
写真① 『ファーサリ写真帖』第3冊標題紙



写真② 「コラージュ写真(1)」(日下部金兵衛アルバム)
(長崎大学附属図書館蔵<1-1>)



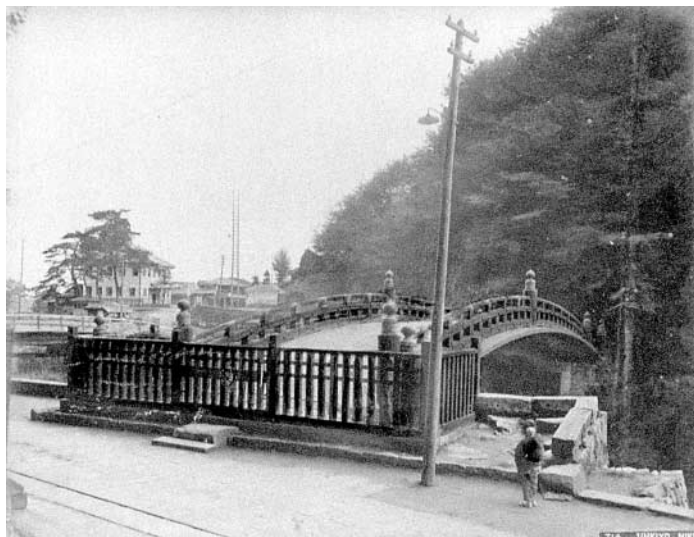
写真③ 『ファーサリ写真帖』 第4冊後表紙



写真④ 『ALBUM』 後表紙

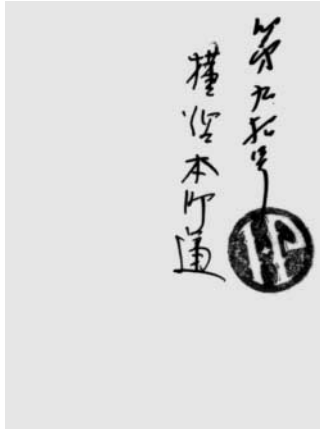


写真⑤ 「SCRD BRIDGE AT NIKKO」(『明治期写真帖』貼込順1)



写真⑥ 「714. JINKYO, NIKKO」(横浜開港資料館蔵<AC1-166>)

人物の数が違うが、右側の子守(少女か?)の様子からほぼ同時に撮影されたものと思われる。ただ、⑥にある電柱が⑤ではほぼ完全に消されている。



写真⑦ 「第九拾号 横浜本町通」
(『寫真帖』貼込順45裏)



写真⑧ 「517. Honcho Dori, Yokohama」
(『寫真帖』貼込順45)



写真⑨ 「514. POST OFFICE AT YOKOHAMA」
 (『寫真帖』貼込順42)



写真⑩ 「514. POST OFFICE AT YOKOHAMA」
 (横浜開港資料館蔵〈本文注(1)⑥書14頁42〉)



写真① 「566. THEATRE STREET YOKOHAMA」
(『ファーサリ写真帖』第1冊貼込順1)



写真② 「566. Theatre Street, Yokohama」
(『寫真帖』貼込順44)



写真⑬ 「520. BENTEN DORI YOKOHAMA」
 (『ファーサリ写真帖』第2冊貼込順2)



写真⑭ 「520. FESTIVAL LANTERNS, BENTENDORI YOKOHAMA」
 (『寫真帖』貼込順43)